



オレンジ色の看板が目印だ

「お母さん、抱えこまないで！」
 「障がいを持って生まれてくる子供の割合は世界的におよそ5%と言われています。そしてほとんどの母親は『なぜ自分のところに?』と問い、『母親のせいではないか?』と責められ、また母親自身も自分を責めるのです。絶望して誤った選択をしてしまう親たちもいたと聞いています」と佐藤さんは話し始めた。

「無いなら、自分たちの手で！」

まだ障がい者に対する行政福祉が整備されていない中、70年代に、ゆうの母体である「歩みの会」も大分県の北部の宇佐市で有志や家族が集まって居場所を作った。その中、大分市のグループが大分市でも居場所を作り、89年には自然食品店をオープンさせ、ここが障がいのある仲間たちの居場所兼働く場となった。自然食品店は「母親の食事が原因ではないか?」と疑われた

待望のわが子が障がいを持つて生まれたら...その苦悩は想像に難くない。最近でこそ、多くの母親がその悩みを公にするようになり、行政のサポート体制も構築されつつあるのだが、まだまだスムーズに運用されているとは言い難い。



ハイゲンキの前で、右端が佐藤さん

母親が、安心安全の食材を食べ続けたいと願っての選択であった。その後、施設は2度の移転をし、現在大分市豊饒で自然食品店をキリモリする作業所となっている。この間、小規模作業所から、2011年の法人化、地域活動支援センターを経て、13年には就労継続支援B型事業所へと移行して来た。行政の枠にはまりながらも、「歩みの会」の理念「違いを

「レジがある!...打つてみたかったです!」
「作業所ゆう」で働き始めた人たちがまず言う言葉です。
「ゆつくりペースでも、できないことがあっても働ける場」
「作業所ゆう」は、みんなが笑顔になれる場です。

JR大分駅から南へ約4キロ。県立病院近くの国道210号線から少し入った静かな住宅街の一角に「自然食品と手づくり品の店 ゆう」がある。愛嬌あるふくろうのイラストが描かれた看板に誘われて店に入ると大きな作業デスクを囲んで何人かがタオル地を縫い、刺し子布巾やアート布巾を作っていた。そう、この自然食品店は障がいを持つ方々が働く作業所でもあるのだ。そこで働く支援員の一人である佐藤由起さんにお話を伺った。



小間希美さんは人工呼吸器を付けたまま絵を描く



小間さんの作品がポストカードになって販売されている
1枚108円

たいものは「内緒! (笑)」だそう。私に「私の絵で元気になるなら...」

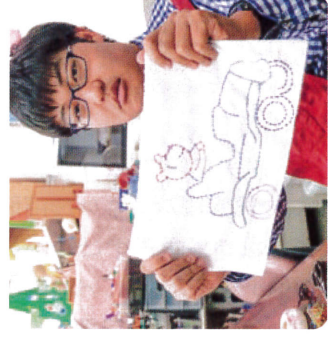
私の絵で元気になるなら...

店内の商品にポストカードと一筆箋を見つけた。明るく、楽しい絵柄に惹かれて「これもゆうの作品ですか?」と聞くと「はい。在宅で絵を描いている小間希美さん(29歳)が描いた絵を商品化しました」という回答。筋肉の病気で全身動かせない状態の小間さんが、少しでも動かせると指でパソコンを操作して絵を描いている。「私の描いたもので見る人が元気になるってくれたら嬉しい」と描き続ける小間さんの作品

認めあい、支え合って共に生きる」ということは揺るがせずに30年やって来た。利用者4名からスタートしたゆうが、今では20歳から65歳までの男女14名が働くまでになった。
「自然食品販売と手づくり品」
 では作業所ゆうで、14名はどんな作業をしているのか? まず自然食品の仕入れ、値付け、販売である。そしてゆうのマスコットである福朗さんの小物や、アート布巾などを作っている。ミシン掛けをしている仲間もいる。アート布巾は絵柄の楽しさ使い勝手の良さで好評を得ている。「イベントで配布したい」と毎年、まとめて購入してくださる教育分野のお得意様も。
 自由な発想で熊や星空を布巾に描こうと針を持つ一人に尋ねると「とても楽しい!」と。そして、次に描き

自然食品と手づくり品の店 ゆう

にはたくさんのファンがおり、彼女の作品展は各地の美術館などでも開催され好評を博している。
「健康の輪をここから」
 自然食品店ゆうでは(株)玄米酵素の製品も販売され、玄米酵素社員を講師にした健康講座も月1回のペースで開催されている。「安心安全で体によい食品を探している際にハイゲンキに出会いました。愛食しつつ販売もしています」と語る佐藤さん。健康講座では外部の方の参加も歓迎し、共に正しい健康知識の取得に努めているそうだ。
 「自然食品と手づくり品の



楽しい絵柄ができました!



作業机を囲んで楽しく布巾づくり

店ゆうに来られるお客様は、お目当ての食品(ハイゲンキも含まれます)を見つけては笑顔になられます。そんなお客様の笑顔を見られたことで働く仲間たちも笑顔になります。この店の売上がここで働く仲間たちの工賃となり笑顔になります。みんな、毎月給料日の5日を楽しみにして、作業所が終わってからお茶をしに行ったりもするようです。
 店を選んだことで、子供のころに一度は憧れた『レジ打ち』ができる作業所となり、もちろんハイゲンキとも出会えました。みんなが笑顔になれる場で働けて幸せです」と佐藤さんは言う。